石門心學道の話 六篇上

教育
157
8

10090
教科書文庫
1
101
10-1892
200030
2459

教育学科
157
8

広島大學
教
53548
図書

心學道之話六篇卷之上

藝陽　奥田壽太講話
東武　平野橘翁聞書

孟子曰莫非命也順受其正是故知命者不立乎巖牆之下盡其道而死者正命也桎梏死者非正命也

是ハ孟子盡心の上篇ホ出てある章で則大賢孟子の話くぢりまいりまが。是ハ中つぐり論語ホ出てある。孔子の語ホ君子ニ三の長ゆり天命と長大人と長き聖人の言と長くと

ひとせれしこゝろの名一番大切ふ天命と長さこの一條を
ムさしく繼ぎあされすしこゝろのと名ずして玉極ひり
がこい。章ふれバ是と今日の西洋の題ホいこしさせ人。
去ふがこ此天命とい人ずと何も名ぬ小人凡夫ハ何
中ノ麦ふずの中ニ心ひて居るのでゞ女のおさんが
相先仕ずハおるふきの人買て稲の上へひげて麦と皿バ
許ら自然落して破でもとるとさ かふしゃ仕弟さ
ひつてきの人買と許がらや落てもれて仕舞さァ、エ、
是も天命じゃといつてり。又武士の人殺ハそれ〳〵後ハ
ぞ人しうでおろ人といふとさハバそのそ人を恵ふ迯さ

と人ずじゃが天命といふのハおそろしいものじゃ
穀根ずで迯てゆつて変。御上の西ゞがさ絞へするとゝ
ひつてさ西人ずを捕へられさげふといふとエ何
しゃやさへられさァ、ア是も天命じゃおぐくいさり
何でもその中ふ思ひがけのあいずホ如舎ずの漢名の
中ふずずこ心ひて居るのじゃが此天命といふ
ずハ是ハ中〳〵ずの難しいずでハなさりま
せぬ源さ人ゝるのく天一ニ玉ひて居ゝ絞バおるしぬ
玉極大切ふずずまバ女中そも暴い方もおろうと
ムとさあて出ゝてあるふん。志〳〵あぐら今日の

ひとりゐんでゐてもかとゝゐりませんゝ聾氣がひくまりもまをせんがそのあとのつくまとゝつと。幸抱ゝとひきくゐされ。むゝちろゝの車亂といふ人や孫康といふ人ハ如て貧分のの中いふ人でゐつてそ人ふが屋ハ一日ちゝゝいて夜の休む間ハ書物と燈で道とゝゐゐびゐかりゐて。貧乏で油と買ふまがゐゐ燈とゝりまるまが出来ぬゝ。車亂ハ貧の欲ふ賞と大そ人ゐあつてその者ゐで書物と燈ぐといふまもあまが。又孫康といふ人ハ者ゐ欲ふ者とゝぐつてまゐゐ書物をまゝしてゐんゝといふまもあるが。それゝゝゐもほ世中ふ清淡ふまその上まだて居ゝ人ゝまをせて世ゐゐゐゐでゐゐゐ。その註釋まで

そゐふまをせて世ゐゐまゐゐといふ人ハ程樂ゐまゐゐまをせぬゝ眠りのひくぐゝいのまゐ。燈芯の粉と照の中へ入てゐゐと又それが嫌ゐゐ風ぐとひゐつゝゐゐと幸抱ゝてひきくゐされ。如まゐ世そゐふ命に非といふ事莫ゐりといふて宵ハもべて世界ハ仏までひゐゐと天命でゐいといふまゐれりのゐやといふまでゐぐりまをせ。又天命といふまゐぐゝゐまゐゐまゐ是ハ天の命令といふまでゐぐりまをせじゃ。ゐゝゐゐぐゝ死のゝてゐ仏天といふまゐと元来世間の人ハ仏ひちがゝて居ゝゝゐ如中ゐ

あるべきなるとハテ合点のゆかぬなどいへる。天といへ
ば大方アノあおいあの星のある處のなどであろうがアノ
あをい星のあざる所の天が仏法雖又仏といへるとおひ
つけさしやるのでゆかぬ。そして又ナノ虚空の天がものと
いへばあるべきようにでも利あるなどがあるものでゆかぬ。
あべく思ひつめるべきなる。我が此天といつてあれもその
やうなをい愛の虚空と指ていつてものでいかんじや。
九道恩録に大虚空といつて天の名あり。氣化に由て万の
名あり。あべくもいつてその理にあつても影形もなく。眼に
見えぬ愛で天といへる名を附とものあるもバカノ天文じやの

天色じやの。又天地じやのといへば仏法にもいろんなのをいふ
の虚空とさして天るいひませへ。けもども為仏法の
やうな偽書の中に。天命じやの天理じやの又孔子の天
仏といふ言やとゆへせられより又眼と天を博てい縛る
愛なるの予と知者夫天乎天厭之とくなどゆへ仏せ
らもとこやうに天とくといへてあるハ仏のあるなる
その里の見へる所の虚空をさしていつてあるべく
なるいアノ天といへてあるハ仏であろうと此世界と此やうに
ピチく活して働て居へて出ざる愛の活と主宰さしたの
ようじや。然して此世界ハ仏でゆかぬと。一つ活と主宰

さるがあけしゝ移べむしゝかゝ氏やうに活さうつゝ不あつて
至我儒つあ不あつてゝあゝぬまづのつの世かゝうア
ゝ不ゝてゝかゝつてゝゝ日さるやゝ月さるをちつゝめろも
息あゝにスウリゝ伸ゝう。又雨とふゝしゝう風を
吹ゝしゝう稲光りをさせゝう。神鳴を鳴ゝせゝう春
ハ野ゝゝをまゝうゝまゝうゝ秋さるをバ赤ゝゝまゝう暖ゝう
冷ゝしゝう湿ゝかゝう乾ゝしゝう。此世界をピチ〳〵
活ゝて働らゝう者ゝてゝゝ活ゝゝ主宰さるゝ。あけゝ移
バあゝぬゝ。そゝを主宰さるのるをゝさゝて儒乃でゝ天ゝいひ
まゝしゝや。そゝをかゝゝさゝを主宰さるを神道でゝ

神ゝも佛法でゝ佛ゝもいひまゝうゝ。それハ皆ゝ方日ゝ
漢土を天竺ゝゝ仮ゝ附ていゝ人数者で。そのまゝ所徳を
書ていゝまゝ儒乃ゝゝゝ乾元ゝゝやの大極ゝゝやの無極ゝゝや
のゝもいひ。神道でハ國常立尊ゝゝやの天御中主尊ゝゝや
のゝもいひ又佛法でハ無量壽佛ゝゝやの阿弥陀佛ゝゝやの不
可思儀光如来ゝゝやのゝ。イヤハヤさるゝ〳〵ゝ貴説さるゝ。
あゝゝゝゝゝそれ〳〵別さるゝゝさるものゝゝゝゝゝ

例て宵とそ山やそれくいおかくくりのがあるやうに思ふくらそとてツイいろ〳〵分をひるがえるそれハ手竟幼雖ちくかゝ只そ名と字とを生へて居るなつゝで歴歴かその活くものがさで見へるゝ我るすじやそれでやくく

一休和尚のよまれさ歌ハ

名ハ迷ふ人のこゝ様のあるさと嗟ぜ知ら人ハ牡丹餅

別れ和尚ハいくと牡丹餅といふ人ハ大きを違てゝ名じやけ見とそのおく嗜ひ公約あもちゞくてすハあい又是を皆さん方の身でいふて見ても同じすじやゝ様くの身ハ行つゝ一人でも西之人をおよつていろ〳〵お名を例て呼ませんがの。おゝ〳〵かゝいつゝと成申ます私が名ハ百度百姓百姓百姓ハ百姓ハ百姓といふ人があるゝも初ハ此ハサア百度百姓百姓といふ名ハ世間通用の独名でなつゝ一ツじやけ見とそのの百姓百姓百姓百姓の一人ハ

おまつゝいろ〳〵名がかゝる活ぎ人つその百姓百姓の一人ハ

いくせ〳〵〳〵長子といふ事でなろゝ〳〵。ゝくくを名ハ百姓百姓の百姓の百姓の

とい人名聲かゝ人男とい人男かゝ人聲といひ發なるも
名がある中に知るぬゞ。その名を落ごのハなつて一人じや。
てゝゝどゝれゝ用ゝすでなつて一ツの此世界の主宰
さぬを孫る名や。又その此偽の名それ変でいろゝゝ
名を用ていひまれゞを名又仏名も用ちかんかゝ
名い仏とおゝゝ孫くの好名ゝゝて是てゝいが。此
世界ハ仏であろハと。その法ゝを宰さぬかゝ命令を
受てあゝゝ此世へ生れて知てその生れ知と生涯の
強くるを。仏法でハ阿字さゝのハ。孟子ハそれを活発
のもゝもいそれてその名と命として森ゝ起ゝゝ

命ゝゝそゝゝゝゝ呼吸動静起居語默去るゝちふ
ツイ死亡て仕舞世界ゐをハ。そのハア又の殘て中ゝの長
いも短いも低いも幸運ゐも微運ゐも皆
ゝゝゝくゝその天の命令でおゝるハゐんをの中。それ
で孟ふまゝ孟子ゞ命ふ非ぞといふ莫也といゝるを
ゝゝゝゝものじや。おハ仏でもそも〳〵のをれ命天命の
おゝるゐをハ仏でゝゝろハとその天ゐ命令のそゝゝと
大切ゝちて去るゝゝ孔ふ仕ゝゝハゐんゝのじや。そゝゝや
アノ庭ゝ出ある草ゐおどのすでも考ハてゝゝろゝゝゝ世。
美揚じやの杜鵑花じやの萩じやの南天燭じやのといゝ

やうなものもあるとちがひはあれけれども。あまをうへはなちらだけの天命也へあんがはをがたくさんあるゝ。それゆゑあんつてるそてもはのあや桃のあれやうあたくさんあるゝあるゝあるも出あるそのあはのあや桃のあがあれも根をあり葉もはり枝もあるものしやから。あのを一ぢん大きくあつて見せへしはをがあんがたくさんでも。そてもはのあや梅あや椿のあやうあたあるへもぬ。又葉の内でも蘭しやの万年青しやの石菖蒲しやのいろ〳〵りのはをへしさ生れ合のよい葉やら。結構な所へ植られて床の上へとられ人工愛玩せらるゝ。それとくらべるゝと五五月くらいなる位姿のいとものも。是も葉ホちがひはあれが為へん生れ合の悪い葉のでおがりまれしやや。是ハ此位ものの位なあるでハ位なあるまへ。まづ生出のうへ天窓を切られてうまを切られくらいそちつくも。我位ホ技業を伸もそのもあるべ。やう〳〵一年の内葉を十枝か十ハ五枝でろう殺れて。あるゝるあるゝ一葉も大きくに出ほくその葉へ悪に切られもて百姓衆の大爐のうへ焚られ。下かゝ煙でプウ〳〵くさくなてもうんでもろあへ悪葉よ。とそれゝゝ引あろうて縄でおそれ出来地のよへ

而人引出されるとなぐさ屋の切葉の上へ寄れ庭丁で
ばんどを刻まれ。その葉へ火ばちをやが。何と同じ事
の中にも生き合の悪いものもいるものとやナモ〳〵ものが
らなどをいそをと仰しも思ひ。只天命の仰に身殘
まりせこそつく考へ人ちやうどそれぢけ上へ
天子将軍様か〳〵千万民に可愛がるとぞ。さん所に所
産業でもマア万幸者と世上にあされども石昌蒲を
世吸あされ〳〵いひいせぬ。世界中の生人産殿へ出てきづ
世なぐこと貴殿せれ。人に丟せれる者に成てハ又
中〳〵難や万幸者や石昌蒲の幹抜ぐころでハあん。人
不と　こやされる。人もてこどのさ〳〵ものでは
の為に迎相様へ行と狂ひ世流のもいるでもつが悪人の
讒言ふまもて。遠い〳〵流柴の國へ左迷ふ世遠あされ。後ろ
その世で世果あされけもど。世生涯の世流が行ち〳〵殘れ
てぜこもこ人後ろの天滿宮と人宮号ぞでも下され
今でハ仰も和ふ様ぞでが天神様と人て崇めなる。
さ人ものと人の世〳〵ものはれ合のあるもと和て。俗而外と
こ〳〵中ぬぞ只我丈第の道と大事大切と動て考ぐこもち
よの一体和者の様ふ
ちが殺へて後ふ〳〵ぬ仕事もど天の仰世のこ國世源民

別程百万石出来あるは大名様じゃとてづいぶんあれハ百万石の大名ニなれさいそのじゃと思ひて百万石へ生れあるのでもあけ様があれハ農人ニなれさいと
ばかりして農人ニなれて来るのでもう一あれハ士ぶうへのあれハ町人が好じゃのイヤあれハ男ハ生まれ人のイヤこうしハ
ムニ多ろ人のこ。仏ぞ寿人芝居ろ番楽狂言ハでも出るやうにそちらかハ好このんで生れ出る世界でハあい皆
それ〳〵の天の命令と受て生れ出る世界あるとばかりんでのやうに位のそんハ人でも。貧上白の大きな人でも利
口な人でも貧乏な人でも。生死のそんハ人ニ及ばぬ
外のそ仏事でもその天ハ命令のとうりとすつくふ
分ニ引出し様ばかりねそれでなニ孟子が順わ
其正と受といられきしこと是ハカノ偽ろう人仏ろ
やうせ天道仏せおしてあるやあるねというすじゃ。
なぜ天ろ不変で強く出ぬ仏の所行して邪ろ法ニ天命
とい人ろと知ねとその所ろ仏の天ハ仏せのとう人
ハ大分ろ遠ひの出来るろでぬぶうろ仏じゃ。ぬせとい人
ニ邪の法ニ天命とう人ろとなて強く系ねひべき
ならべ十分ニ邪ぬ所ろしてそのうへでの。幸不幸ろのこと
いハあるく仏せ天ハやうせおきる。それが邪のあるこ

ようせ天ゐ任せといふものしやけもど。物の治さ天
命の為が知るぬとその為為ひべき為をが直く為ぞ
しゝ年中のゝゝあそんで居そ。そゝてあゝと
任せじやのイヤ天ゐ任せじやのといふて居るそれいてゝ
ど。教系が日和をも見ると海へ為と為知して
あゝと任せの天ゐ任せのといふて居ると同じもで
危いるの天とじやゝ。そゝれゝゝ人は只世ハアスウの
主と為て。治さ天命といふものと為り治ゝめ為を
あゝぬるでゆぐりすびじやゝ。さゝあゝとぞんを為ゝひ
人でゆゝゝと此天命のあゝ死と為る事ゝ知ず

おゝいそれと一ッ生死のるでいふて居るゝ。此世人生死
のまれて知る方のるへゝ。ゝぐ此かゝぐのおいうちのるる
しやおゝて為ゝいふゝゝゝの物はあゝと任せ天ゐ
任せで。此方かゝちゝも自力のれを修もるるハ出来
ぬが。死る方のるるハモウ此かゝぐの出来てから後ハ
るるも。治ゝあゝのお人ハ大分此方かゝのを修もるゝ
が多ゝ。そゝやあゝぜゝいふよ。ゆゝゝ孔子さまや顔子や
曾子のまゝおゝ方ハ第一分のれひが正しゝて。分るるお
悔ゝゝが深く分の養生不善理をあゝきゝぬ事ゝ。そゝや
皆天の命令だけの命数を今をゝみゝゝるゝちゝそゝで

ひろ〳〵がそのれれれ小人凡まハ中〳〵天の命令ばけの
命数を全く保つてゐる出来ぬ。そりゃあぜあれば今日
の行ひよきぬ〳〵お方理をしてそれを忘れを苦〳〵わ
るうあるぬすをあるそんしてそれを心を費し
ち。欲貪をあるかゆあるいろ〳〵お病気し
ちろ。ゆえの時ちうつそんの腐の中へそちうゆでそ
ゆ〳〵かいとい人奥で命を削ちるゆ。ぞつ〳〵
ひろちうまんの天社命数を二年ちめるろ三年ちめ
るいちぐひハあ。それでなかゆ孟子がゆ深切ゆ命を
知るそのハ巖牆の下ゆたぐぐいそあれ〳〵〳〵

巖牆といハハ大きゆ石でそ〳〵巣上そ石垣の今
も残ゆ人ちそうゆ〳〵あゆあげゆ石のすゆじゃ
が。そのゆうゆ石げゆ来ハハ後の天命と知る君子
ハ変して立者ぬといハ。こりゃ孟子の強のことたゆ
人の命といハものハ。ハ慎婬〳〵慎し〳〵中ゆりの
でハ。慎婬ハ天命のゆうゆちの強てある人ハ食れゆ
ゆ。ちじゃ。そうでひの大を長く保そ人とゆの人ハ。
ゆうろ〳〵人答でもあけて風のひろ〳〵ぬゆうぐん
大切ゆ用心して歩ハ。慎婬の天命のあろ〳〵けハ〳〵
つ〳〵ゆるゆちぐひハあんが。それを人答のこころ学ひ

もせぬ用吹へ突出して為て撞木の響へ流まるもかまるべ中でふーしてて至べいづも失の跡て行る方もみぢこんおちぐいもおいぐ。そのうへ又まさまるくすると
そのろうそくの天命へよりほどあり有ぐしの中途で用ゑ吹消まもうゑいろくなものふくられうする
やうおすが義名もいるうやう動れぬじゃ。そこで義
ゑいてある中命を知るものハ巖牆の下に立べと
よりつぐ。今日と用ゐせるやうやおねまるじゃ。昔孔子様
ハ魯の國九城の門と四通ありさる時その門の厩ゑいるうん
石垣が古く崩れかゝつて頽てあつて魯孔子ハそれ

石垣の中と四通ありさる時まハ。身をちぢめてツイと走つて
通りあられることゝいふまじゃ。その時ハ例ゑ法ゑ石
垣の門人がそなくまハ。石垣ハむくりよりの中ハ
古くかくもいてある石垣ハ中もその中ハ中ハ
あるるおいあうびやまんとやとうまくれば孔子様が
行ゑせるくおいイヤあるとハ又古くかくもいてる石垣ハ
崩れあぶあゑ男ゑと行ゑせらまることゝいふまじゃ行ゑと
聖人といふものハ名ん身を大切ふおるるものしゃみな
そうやあぜなるまバ此身ハ名朱忠孝仁義の為ゑ
生れ出て天命の大切おかゝだといふまて強ゑくいざる

かゝるものでや。さうしてそれは決して只今皆さま方へちよと申尋ねまするが出ぎりまする。外のものでいはうとすれば。只人の苦さんや私ホガ身は弱く持合して居るものゝ中でいつも大切なものいひでやうやうせふ。なるべくホ着てゐる衣服じやの爲のおどやつといふ人おい是いその外くの樣子は比べて見るべいのでもあんまものじやかゝ。それゝゝ皆教て仕舞てそのかゝぢ中で珍味してゐるぞ。天窓でゐるものであるゝ口でゐるゝ人の眼であるゝ人の鼻でゐるゝ人の耳でゐるゝ口でゐるゝ人の一ツ〳〵珍味して見ると皆入用なる鼻で大切なものホちがひもあり。又眼の代りと耳で聴さゝ人といふものも密密絲ハの代と鼻で仕ふゝといふ事も出来ぬものの人ぐでの中ゝ外奇きな人でゐるゝと強の強い人でゐるゝとあるゝ人の眼と片眼金千両で買ふもゝ人うゝ妻てやさぬうといつてさそ。めつくホ妻をものでハなぎりませぬが。さゝ人ゐるゝと口五の口かゝぐといふものハ一ゝ金張よ強つく見るゝ実よ分る五ゝも易られぬ大切なものでハなぎりまれが。その又分る五ゝも易られぬ大切なものゝ中ゝでも式ハアスウ〳〵の香がおけら強ぐそうや又分の殺るも立ぬりので一日も夜へ立てゐるも出来ぬ。いづれ

續て社稷う土へ埋でも仕舞ふやうしぬがそこいふんるこ所
今爰ニ出五ヨ拾金して有るもの、中ていつそ一番大切な
ものハ只式ハアスウ〳〵の命でさぎりもせふのそこいふ大
切ふ天命の命ふ見バ一日も長くなりつやうふ大切り
守て有こ様ばあるぬすむ人命と云るものハ巖牆の下に
立ぬでさいふんいぶふ人へ立寄ぎいぶふんすをせぬ
用心せ様ばあるぬすじや。ちり又かうの人と切ふも云
らぬ女中方や子供衆ハカ芝居をする忠臣義の芽ハ
古夫や定九郎とゐる中ふ内つゝ無ヨ命を惜ず。
切ふべき場面へ出合もせに為べれるもせれといふす

かこ思ひ切ふ切ふも知ぬがそりやみ大きふ大ふ
違ひじや。ふぜといふよ人の身のうへでハおもいふ
こふり命ふじゃ大切ふものハふい大切ふ命の使り
様ふるゞ人の為じや。悪じて仕道と命ふ云ふ第一ツ
あてけふも別ふくふものぐいかんけきじゃ分ら
ふと道ハ万古不易の為で幾万〻年も易らぬもの。
命ハ式かこ一代のものふもぶ命より重いものハ為
じや。去ようつく友ヨ孟子ぶ会をへて其為を尋ね
て死るものハ正命ありと云あり。惑れやすいことが切と
ふ係切ふすじゃ切ぎりもせぬ。昔楠正成公ハ撰別

淺川で討死をなさるゝ時は不忠の莊文部殿とゝの仁は分
へは思物の忠を思ふ為なるふは書を知をなされは忠義者
の年人といふ人ふ形せては肉へはとゝ知されさとゝ
なるじやが。その書を見の文を行と書てあるそといふと
此後年人是等しい後別義を非ぞ忠義を為る道
と云ふ程の年や後成長の乳量見届度は義の重
さを更る道をかゝ会勤学をなる後の後忠
義の中可為忠臣忠烈とだろう書て行つて。横莊の部後
同為臣と書かされ。又尚書ふ為に武巻絹一疋ハ
公より拝受奥是ハ祖より戦未を忘れは行ども為さ
かゝるみゝ贈ひと書てあるが。行と洞のゝぼをゝらすじや
ものぞうとせぬ。元性あるものゝ子を思ふ親をものへふん。
焼野の雉子夜の鶴も子を思ふが為人の辛苦。そこて人
ゝて子を知ぬものへ知けもゝ子を討死と古
是程を為されさはなよ。行へ出ぬ為ふきる四天狗名のる
と思食ぎされいで行とせ。海そのため為いつまでも
活死なう思ふとて行ろふけもゝ義の為きさる更に
道をかゝとあるのでなといへものゝ為んすと考へ
て五ろへゝ。いふ行へ智仁の勇持じやゝとそゝん
ハ命じゃあんぞ。死ともあん大切を惜しい命じやけれど。

忠義といふ人間へ比べて見ると行ずるの所に強いものの不動
のものや。命の義ようて強しといふものの事で畢竟
人と和ふが為の命。命を捨ずに人ぶための人でいたらん。
そんなものこの五ツ位命のいらんかきり親うの孝行を人
うの忠義夫婦の和合兄弟の和睦じく他人の交りの
の信実を以て交ずに人の人じやふよりく和めぬる様に
なるぬるすでいはずりすせぬうちとマア考へて見るこじ
やせ。出りしぬせんいつとぜんやかんいんれいよりの
ぜこそんなものでそのこりの人の人とカ一ぱい和
るものやうんぜんうもあまりすぬが出りく私い

さやうなものでいはずりすぬ和ようつきりぬ不調法
ものでなりてきてもなの時ぬ男なれば分やうもまり
たぶ〜と皆換へいつしやんも実ハ為ぶ和ようし
伏なもど。見ていたくていつく見るく嬢の弱い者の
弱い男が伊勢参宮をなひをて同伴の人と張ひあ
くく同しやうで。実ふ信心ぶ分つて来る事のるれ
なんば世程よ同伴人と張ひいらくあハ及ぬ人ぬれ
どもこが為ぶ弱味男のおきさ来るこい事を
ひくべも外よつもの人ぶないとぜんやつ和ぬやう
なもがしてぶんしても一人をて関ようこ如ぬれこ

ありませぬのじゃ。それでマアあちらこちらと用捨の
人を誘ひあるきまんは用捨を一人ありまもたんとう
らんて千月様と勢いる自分もあべりくあるを
いつやらあるのでおべりやんじゃ。それでおくゝ親分
ふそんもあんやあるをもにはあるがしていひちくに
いひ過しもおべりやせんがそこハマア懐無してあるを
やされ故マアそれハそもふしてけ兄さといつまもそく
おりしんをふるのでお業を精出して家が繁昌をする
う奉公を大切を勤るのでお業くを立身をるの身代
分限をもて居るのでもひの外金銀が溜るるを

正直中して居るのでお世話の人を可愛がるるの如
様くあが知れるくをそのあもあるでおかをるのいくの
ありまやを久様をる。程ありくそれへ嫁をそれ外中を孫が
知れるそのかくり祖父様ハ去年の月命をくが知れる八十
八でありて祖母様ハ今も達者で氏内系をりをせられ
時月をるるで暮らをて。相変くあハ親年過りるを迎ひあ
つくあるを家中をあるをそれも嬉うて正直を通て行へ
と代ハ知れも吹聴くお掛けをの金銀も儲うく溜る
とくあ中ハ知れるが行をする順をいつく仕合のをハ暮
でも暮天命といをるハ思ひ知るもやいひ知るもせに

ぶ、おもうくで有るものじゃ。サテそれが変じて出て来ると
例へば頭へ来る変じたると腹へ来るか面白こと聞くと子を
産むと云ふ様なその中に石田治部少輔殺されると云ふ事
の時。あるもの。武兵衛といふ人と思ひ知りたいといふものでく
武方の内お武様方のあるそもあんものじゃの様なの事
なあのやうなものあんもじゃのと。何そ苦かく行つくく
あんくとすが強なる遺ろて来ると死ぬと人が騒いて居ると
仕方と申して云ふくさくじゃのじゃうそれが皆
力の強く兵衛といつてすを知ずして力の養善の餘慶
じゃの虎渡の陽渡じゃのといふと様ぞそ文の孫出

して銘の為買う重宝を頂ふてそれ霊験を蒙ふてその中
に様くあるうと綴るるじゃが。その中に為変易とる礼
で義事様ふこう義理義根を弟るその後ろに門弟の名
舎は一文の銭やつこう一椀の飯とやつこうすまでかそく
ろてその報をモウ来るとモウ来ると待て居るでいろ
ふがその中に様くしい数明なあつてハそれも鄭の乃ち
知るすると出来給ば天の冥意とかうハ決いちんこう
マアくそのやうに交易もろれハ孔でやめて居るおのれく
が変方の為を大切に為るがいつちよんさんく
して有まバいづもうしても為れるハあいもれくじゃ

そのうへ[illegible]吾事をそれば吾よりちがひもあり。恐るべきものでなくていふと火へ熱うておを焼が火の考あり
へ冷うておを凍るがあの考といふやうなものしや。
なまじ吾人の不幸ゆあつてこう恐人の幸よあつてこうするのと見てあるをそれば人事をもべよいの恐ゆあとすもべ恐いのといふは遠じやといふはてもこと爰ゆ恐
やをあ懐火といふものの葉屋の屋根ゆそへ爰て焼ぬのと見て。火へあつふておを焼をものじやといふ盛じやといふこと。
紙根ゆでの温泉へ遠入て見て水へつめたん

じやといふは大きゆ遠じやといふと同じ事でく
そをはをのく変といふものゆもべ者の方ゆ規矩をは
あるぬるもしやが。ものく氏小人といふものはそれの変
の方へ眼をつけて考の方をべ見向もせぬものしや。
そをで孔子は僥倖と作ちまてこが僥倖といふ
いふこがを幸と形人といふものじやが

中の巻へつづく